

## 『JVA2020 年年間統計調査結果』について

当協会の業務部会マーケット調査委員会は、2020年1月～12月のビデオソフトの出荷についての統計調査を『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol.90』にまとめました。

つきましては、ここに結果の抜粋となりますが2020年の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、本報告書は一般の方にも有料にて頒布しております。発行は2021年3月上旬を予定しております。

本件のお問い合わせにつきましては、広報課(03-3542-4433)まで、または、協会ホームページの「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以 上

### 2020年（1月～12月）の実績について

はじめに

本年は、新型コロナウイルスの影響を多分に受けた年となった。本年の実績は、昨年対比で厳しい実績となったが、市場性によるもの加えて、新型コロナ禍による4月以降の発売タイトル数の減少、行動自粛による消費の低迷も加味し現状を認識しておく必要がある。

また、本年調査より、これまで実施していた上半期、下半期毎の調査は行わず、毎月実施していた月間統計調査の累計をもって、年間の実績とすることとした。

1. 2020年のビデオソフトの総売上は1,371億3,700万円で前年比86.2%となった。上半期は714億3,900万円で前年同期比92.1%、下半期が656億9,800万円で前年同期比80.6%だったことから、コロナ禍の中において、本年後半の売上の落ち込みが大きく響く結果となった。

ビデオソフトの総売上金額をメディア別に見てみると、DVDビデオが660億6,600万円で前年比89.3%と約1割の減少となったのに対し、ブルーレイ（Ultra HD ブルーレイを含む。以下同様）は710億7,100万円で前年比83.5%とDVDビデオを上回る減少幅となった。構成比ではDVDビデオの構成比が48.2%となり（2019年は46.5%）、年々、減少していたDVDビデオの構成比が本年は増加に転じた。

<添付資料 表1>

2. ビデオソフト全体の売上金額を流通チャネル別の構成で見ると、販売用、特殊ルート、レンタル店用、業務用の割合は、83.3対0.3対16.0対0.4となり、販売用の割合がさらに増し（2019年は81.6%）市場の8割強を占めている。

<添付資料 表4>

3. 販売用全体（DVDビデオとブルーレイの合計）の売上金額は1,142億800万円で、前年比87.9%と前年を割り込んだ。そのうちブルーレイは686億9,500万円で前年比84.2%、DVDビデオは455億1,300万円で前年比94.3%となった。販売用全体に占めるブルーレイの売上金額の構成比は60.1%となり、前年に続き6割を超えることとなった。

<添付資料 表5>

販売用全体の売上金額をジャンル別に見てみると、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛等により需要が高まった『日本のTVドラマ』が構成比3位（8.0%）となり、前年比も131.8%と売上を伸ばした。また、構成比5位（6.3%）の『芸能・趣味・教養』が前年比131.8%、『アジアのTVドラマ』（構成比1.7%）が前年比128.5%と同様に大きく伸長した。

一方、構成比1位（40.0%）の『音楽（邦楽）』は、前年比92.7%、構成比2位の（22.5%）『日本のアニメーション（一般向け）』は前年比79.6%と前年を下回った。また、構成比4位（7.8%）の『洋画（TVドラマを除く）』（構成比7.8%）は、前年リリースの大ヒットタイトル『ボヘミアン・ラブソディ』の反動もあり、前年比59.0%と売上を大きく落とすこととなった。これら大幅減となったジャンルは、新作の発売延期や制作の遅延、コンサートの中止等、コロナ禍において最も大きな影響を受けたジャンルといえよう。

各ジャンルの売上金額におけるブルーレイの割合は、『日本のアニメーション（一般向け）』が79.5%（前年82.1%）、『洋画（TVドラマを除く）』が76.9%（同80.9%）、『邦画（TVドラマを除く）』が52.5%（同55.0%）となり、これらのジャンルにおいてはDVDビデオよりもブルーレイの売上減少率が大きくなったため、ブルーレイ比率が前年を下回ることとなった。

『音楽（邦楽）』においては56.2%（同55.2%）で、これまでの傾向通りにブルーレイ比率は伸びている。

<添付資料 表7>

4. ブルーレイの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比4位（6.1%）の『日本のTVドラマ』が前年比131.8%と伸長、さらに構成比5位（4.9%）の『芸能・趣味・教養』が同151.5%と前年を大きく上回ったが、構成比1位（37.3%）の『音楽（邦楽）』が前年比94.4%、2位（29.7%）の『日本のアニメーション（一般向け）』は同77.1%、3位（10.0%）の『洋画（TVドラマを除く）』も前年リリースの『ボヘミアン・ラブソディ』の反動により同56.1%となり、主要なジャンルが前年を下回った。

<添付資料 表7>

5. DVDビデオの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比3位（10.7%）の『日本のTVドラマ』が前年比131.9%と大きく伸長、さらに構成比4位（8.3%）の『芸能・趣味・教養』が同117.1%と前年を上回ったが、構成比1位（44.0%）の『音楽（邦楽）』が前年比90.7%、2位（11.6%）の『日本のアニメーション（一般向け）』は同91.3%、5位（5.7%）の『邦画（TVドラマを除く）』も同83.1%と前年を下回った。

<添付資料 表7>

6. レンタル店用全体 (DVDビデオとブルーレイの合計) の売上金額は218億7,500万円で、前年比78.2%と前年を大きく下回った。売上金額全体に占めるDVDビデオの割合は90.8%でほぼ前年と比率は変わらないが、売上金額は198億5,500万円で前年比は79.5%となった。一方のブルーレイのレンタル店用の売上金額は20億2,000万円で前年比67.6%だった。

<添付資料 表5>

レンタル店用全体の売上をジャンル別にみると、『鬼滅の刃』のヒットを受け『日本のアニメーション (一般向け)』が構成比1位 (20.1%) で前年比101.3%と前年を上回ったほか、構成比5位の『日本のTVドラマ』も同120.7%と大きく伸長した。また、構成比4位 (16.6%) の『アジアのTVドラマ』も同102.0%と健闘した。一方、構成比2位 (18.3%) の『洋画 (TVドラマを除く)』が同56.6%、3位 (16.9%) の『邦画 (TVドラマを除く)』は同70.7%、5位 (7.8%) の『海外のTVドラマ』が同65.1%と大きく前年を割り込み、全体に影響した。

売上金額におけるブルーレイの割合が最も高いのは『洋画 (TVドラマを除く)』で、売上金額の23.8%を占めた。また、『日本のアニメーション (一般向け)』では、ブルーレイの売上金額が前年比339.5%と大きく伸長したことから、ブルーレイ比率が23.1% (前年は1.9%) となり、割合が高まってきている。

<添付資料 表8>

7. 売上金額を売上数量で割って単純に求めた1枚当たりの単価を見てみると、DVDビデオの販売用の平均単価が3,813円で前年比106.1%、ブルーレイの販売用は5,775円で同102.9%と、ともに上昇した。DVDビデオでは『音楽 (邦楽)』『日本のアニメーション (一般向け)』『日本のTVドラマ』『芸能・趣味・教養』等の構成比の高いジャンルの単価の上昇が影響、ブルーレイでは『日本のTVドラマ』の単価の上昇の影響が大きいと思われる。

DVDビデオの『レンタル店用』の平均単価は1,557円となり前年比103.9%と上昇、『邦画 (TVドラマを除く)』や『洋画 (TVドラマを除く)』、『日本のTVドラマ』の単価上昇が影響したとみられる。ブルーレイの『レンタル店用』の平均単価も2,227円で前年比127.7%と上昇、こちらも主要なジャンルにおいて単価上昇がみられた。

<添付資料 表6>

以上

## 追記

<本統計調査報告についての注意点>

- 本報告は、JVA 会員社が発売、販売する自社作品および他社作品の出荷段階の売上をまとめた統計である。
- 返品分は金額、数量とも調査時点において差し引いている。
- DVD とブルーレイのコンボ作品はブルーレイにカウントしている。
- 「日本の子供向け (アニメーション)」などにある「子供向け」とは、目安として9歳以下の子供を対象とした作品のこと。
- ブルーレイの売上にはUltra HD ブルーレイの売上を含む。
- 「特殊ルート」とは、雑誌やコミック、食玩などとして他商品に付帯されるものの売上のこと。